

メタカム® 0.05% 経口懸濁液猫


 Boehringer
Ingelheim

動物用医薬品

2022年2月改訂

貯法 気密容器、室温保存

承認指令書番号	24動薬第2720号
販売開始	2008年10月
再審査結果	2014年6月

猫用非ステロイド性消炎鎮痛剤
劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

メタカム® 0.05%経口懸濁液猫

【成分及び分量】

品名	メタカム0.05%経口懸濁液猫
有効成分	メロキシカム
含量	1mL中0.5mg

【効能又は効果】

猫：運動器疾患に伴う急性の炎症及び疼痛の緩和

【用法及び用量】

猫：本剤を通常1日1回、1日目は体重1kg当たりメロキシカムとして0.1mg、2日目以降は同0.05mgを、必要に応じて添付の計量シリンジを用い経口的に投与する。本剤を反復投与する場合は5日間を限度とする。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- よく振り混ぜてから使用すること。
- 計量シリンジは、使用後必要に応じて乾いた清潔な紙又は布でふき取ること。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は、直射日光、高温及び多湿を避けること。
- 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- 非ステロイド系抗炎症剤 (NSAIDs) に過敏症の既往歴のある人は、本剤との接触を避けること。
- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。なお、本剤の添付文書を持参することが望ましい。
- 本剤は眼を刺激することがあるため、眼に入った場合は直ちに水で完全に洗い流すこと。

(猫に関する注意)

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

① 対象動物の使用制限等

- 妊娠或いは授乳中の猫に対する安全性は確認されていないため、投与しないこと。
- 本剤は、消化管が過敏な状態にある猫、消化管に出血性の疾患が認められる猫、肝臓、心臓或いは腎臓の機能障害並びに出血性疾患が認められる猫、及び本剤に対し過敏症の猫には投与しないこと。
- 本剤は、腎臓に悪影響を及ぼす場合があるので、脱水症状、循環血液量減少或いは低血圧症の猫には投与しないこと。
- 本剤に過敏症の既往歴がある猫には使用しないこと。
- 本剤は3ヵ月齢未満の幼若猫には極力投与を避けること。

② 重要な基本的注意

- 高齢で衰弱した猫は、副作用が発現しやすくなるおそれがあるため、臨床症状を十分観察しながら慎重に投与し、異常が認められた場合は速やかに投薬を中止して適切な処置を施すこと。
- 本剤の投与前に腎機能検査をすることが望ましい。

③ 相互作用

- 腎毒性を有する可能性のある薬剤との併用は避けること。
- 他のNSAIDs、利尿剤、抗凝固剤、アミノグリコシド系抗生物質及び高いタンパク結合率を有する物質との併用は毒性作用がみられることがある。ステロイド系及び非ステロイド系抗炎症剤、アミノグリコシド系抗生物質或いは抗凝固剤と併用しないこと。抗炎症剤を前投与している場合、副作用の発現或いは増強が生じることがあるので、本剤の投与前に最低24時間は間隔を空けること。但し、前投与した薬剤の特性に基づき、この期間を適宜延長すること。

④ 副作用

- 本剤の投与により、NSAIDs特有の食欲低下、嘔吐、下痢、潜血便、元気消失及び腎不全がときに見られることがある。また、消化管潰瘍及び肝酵素の上昇がまれに見られることがある (0.01%未満)。消化管に関わる副作用及び元気消失は、ほとんどの場合一過性で投与を中止すれば消失するが、まれに重篤化することがある。これらの症状が続く場合は速やかに投薬を中止すること。

⑤ 過量投与

- 本剤を誤って過量投与した場合には、適切な処置を施すこと。

【薬理学的情報等】

(薬効薬理)

メロキシカムはベリンガーインゲルハイムファルマ社(ドイツ)によって合成され、ベリンガーインゲルハイム ベトメディカ社(ドイツ)によって開発されたオキシカム系の非ステロイド系消炎鎮痛剤である。メロキシカムは、炎症性反応を引き起こすプロスタグランジンの生合成を誘導するシクロオキシゲナーゼ2(COX-2)を優先的に阻害することにより消炎・鎮痛効果を発揮し、従来の非ステロイド系消炎鎮痛剤に見られるような消化管障害、腎毒性等の副作用の発現が少ないという特徴を持つ。

本剤は猫用経口懸濁液で、猫の食餌に滴下し連日摂食させて投与することによって運動器疾患に伴う炎症及び疼痛を緩和する。

【製品情報お問い合わせ先】

ベリンガーインゲルハイム
アニマルヘルス ジャパン株式会社
〒141-6017東京都品川区大崎2-1-1
お客様相談窓口 TEL:0120-499-419

【使用期限】

ラベル・外箱に記載

【包装】

3 mL又は15mL×1ボトル

製造販売元

 **Boehringer** ベリンガーインゲルハイム
Ingelheim アニマルヘルス ジャパン(株)
東京都品川区大崎 2-1-1

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。

使用の手引き

【キャップの開け方】

本品はいたずら防止のため、キャップをそのまま回すと空回りして開けられないような構造になっています。以下のようにご使用ください。

- ・ 未開封の場合
ボトルを片手で持ち、もう一方の手でキャップをボトル側に軽く押し込むことで空回りを抑えます。そのまま、キャップを左回りに回し、ねじ切ってはずしてください。
- ・ 開封済みの場合
同様に、キャップをボトル側に押し込みながら左回りに回してはずしてください。

【使用方法】

ご使用前には、キャップをしっかりと閉じたままボトルを転倒混和してください。



以下の方法に従い、1日1度愛猫に与えてください。

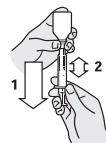
- ・ ボトルから直接食餌に滴下して与える方法
キャップをはずしたあと、食餌の上でボトルを逆さまにしてゆっくりと一滴ずつ押し出してください。
愛猫の体重に基づいて、下記の表の投与量を正確に滴下してください。

愛猫の体重1kg当たりの投与量

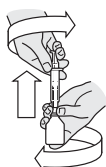
1日当たり	1日目のみ	2日目以降
ボトルからの滴下	6滴	3滴

- ・ 添付の計量シリンジを使用して与える方法

- ① シリンジをしっかりとボトルの先端部分にねじ込みます。
- ② 下図のようにシリンジを差し込んだままボトルを逆さまにし、シリンジのピストンをゆっくりと引いて、薬液を吸い出してください。シリンジには1kg単位で10kgまで目盛が書かれています。ご使用を始めた1日目は愛猫の体重の2倍の目盛、2日目以降は愛猫の体重の目盛まで薬液を吸い出してください。尚、10kgを上回る分については差分を再度シリンジで吸い取るもしくはボトルから直接滴下して使用してください。



- ③ 薬液を吸い取った状態で上下を元に戻し、下図のようにシリンジとボトルをゆっくりと逆方向にねじってはずしてください。



- ④ 愛猫の食餌の上でピストンをゆっくりと押し込んで、中が空になるまで薬液を全て食餌にふりかけてください。

